令和７年度第４回
瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会　議事録

日　　時：令和８年２月１９日（木）　午後６時００分から午後８時３０分
場　　所：瑞浪市役所西分庁舎１階会議室

出席委員：大宮　康一（委員長）、辻本　紀み子(副委員長)、柴田　洋子、
谷本　陽子、富田　宏、有賀　秀雄
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事 務 局：瑞浪市長　　水　野　光　二
みずなみ未来部長　　正　木　英　二
市民協働課長　　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　中　筬　高　弘
まちづくり支援係　　大　髙　まりあ

日　　程：
１　あいさつ
２　審査会進行等についての説明
３　ステップアップ事業審査
４　市民活動補助金事業審査
５　全体講評
６　事務連絡
７　閉会

【１．あいさつ】
＜市長あいさつ＞
皆さん、お仕事でお疲れのところ、午後６時という早い時間帯にもかかわらずご出席いただきありがとうございます。
今年度もあと１か月余りとなりました。市民の皆様がそれぞれ創意工夫を凝らし、瑞浪市の活性化に向けて活動してくださっていることに対し、深く敬意と感謝を申し上げます。
私どもは、そうした活動を支援・応援する立場にあります。本日は、来年度のステップアップ事業や市民活動事業の審査をお願いいたします。いずれも大切な事業であり、これまでに一定の成果を上げてきた事業が挙がっていることと思います。委員の皆様には、しっかりと説明をお聴きいただき、お気づきの点がございましたら、より効果的な事業となるよう温かいアドバイスをしていただき、事業の「応援団」になっていただければと思います。本日も、どうぞ

よろしくお願いいたします。

＜審査委員長あいさつ＞
皆さん、こんばんは。お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。こうしてまた皆様とお会いできることを嬉しく思っております。
本日は、先ほど市長からお話がございましたとおり、3 つの事業の審査となります。市民の皆様の活動が、今後の継続という観点も含めまして、市民の方々にとってより良いものになるよう、皆様から活発なご意見やアドバイスをいただきたいと存じます。本日も、どうぞ活発なご発言をよろしくお願いいたします。

【２．審査会進行等についての説明】
≪事務局より説明≫

【３．ステップアップ事業審査】
特定非営利活動法人　釜戸町まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）
●委員
提案書の事業目的にある「町民の買い物を支援し、生活の利便性を高める」という点について、買い物難民の解消という観点では、販売内容が五平餅、みたらし、地元の野菜であり、営業日時も土日祝日の 9 時半から 15 時半までである。移動スーパーが毎日稼働するのであれば買い物難民の解消につながるが､週末のみの販売では不十分である｡現在の形からスタートし、今後は販売会議等を通じて必要な品目を徐々に増やしていく方針とのことなので、事業としての盛り上がりに期待している。
〇釜戸
買い物支援や難民解消という観点において、立地場所、提供メニュー、営業時間などの課題があるのはご指摘の通りである。しかし､本事業で最も重視しているのは｢事業の持続可能性」である。完全なボランティアとして平日営業や豊富な品目を揃える方法では長続きせず、拠点自体が持続不可能になる恐れがある。観光需要による収益を事業の基盤としながら、生活支援の機能も持続可能な形で両立させるために今回の提案に至った。

●委員
提案書の目的の記載順序について、ページによって生活支援が先に来たり逆になったりしており一貫性がない。どちらが主で従なのか、または同列なのかを明確にしていただきたい。
次に、五平餅の販売計画の算定根拠に国道 19 号の通行量が挙げられているが､「予約販売」も行うとされている｡国道 19 号を通行するドライバーがわざわざ予約販売を利用するのか､見込みの立て方に違和感を覚える。通常の通行のついでに立ち寄る客層やニーズの想定が心配である。
さらに、支出計画について、上水の予算はあるが下水の予算が見当たらない。上下一連で請求対象となるはずであり、後で予算が不足して困窮することを懸念している。

〇釜戸

目的の記載順序については、複数の目的を抱える中での示し方の結果である。まちづくり活動において単一目的であるべきではないと考えているが、成し遂げたいのは町民への生活支援の持続的実施であり、資料の表現については修正する。

次に、通過交通と予約販売の整合性について、複数の販売チャネルを組み合わせることで事業継続性を高める狙いがある。飛び込みの来客と予約販売の両方を想定している。

また、下水道使用料については水道光熱費の項目に含めて試算しており、想定売上の範囲内でまかなえる計画となっている。

●委員

東屋を改修して五平餅等を販売するとのことだが、東屋で飲食ができる体制にするのか、販売専門にするのか。子どもやお年寄り、家族連れが楽しめる空間であれば素晴らしい。

また、駐車場はあまり広くないと記憶しており、信号との関係もあり、車の出入りが難しいのではないかと危惧している。

70 代の方々13 名がスタッフとして活躍できる体制や、次の担い手が現れるようなまちづくりとしての活性化には期待している。関連して、スタッフへの「委託料」について、13 名へアルバイト代のように還元されるのか、無償のボランティアではないという認識でよいか。

〇釜戸

半分を調理スペース、残りの半分に約 12 席の客席を設ける予定である。移動スーパーや農産物販売所等のエリアは、車両通行のない安全な場所で行う。

駐車場の狭さは課題であり、市と協議して新たな駐車スペース確保に取り組んでいる。イベント時の歩行者と車両の交錯など、安全管理には十分注意する。

スタッフの報酬については、県の最低賃金基準での雇用では事業継続が困難である。そのため、用意できる委託料（月額約 7 万 600 円）を従事者で分配する仕組みとしている。無償のボランティアではなく、継続性を担保するための労働の対価としてお支払いしたいと考えている。

＜市長コメント＞

ドラゴンのモニュメントの隣にある東屋を改装し、説明の通り半分を調理場、もう半分を客席にすることで、約 400 万円の改修費で整備が可能であると捉えている。かつては常設の五平餅店があった。釜戸町民もよく買いに行き、私自身も来客があった際には 10 本、20 本と買って振る舞うなどしていたが、高齢化等により数年前に閉店してしまった。そうした経緯もあり、今回この店舗を開設することで、町民だけでなく通過交通の客層も呼び込むことができると考えている。

現在、地域内のコンビニがなくなっており、道の駅の整備計画についても大幅な遅れが見込まれている。その間の空白期間をつなぐ一つの事業としても、竜吟峡を活性化したいという今回の提案の意義は大きい。私自身も釜戸町の住民としてぜひ応援したいと考えており、委員からご指摘があったように、まだ十分に検討や見直しが必要な部分はあるものの、ぜひ事業を実現させてほしいと願っている。

【４．市民活動補助金事業審査】

ネコタスみずなみ（以下「ネコタス」）

●委員
令和7年度は50万円で申請されていたが、事業費は足りたのか。また、令和7年度の申請と比較して、今年度の申請で消耗品費が増えた理由は何か。
〇ネコタス
令和7年度の補助金50万円については、報告書の準備中であるが、想定していた範囲内で収めることができている。地域猫のTNR（捕獲・手術・返還）については、県側の制度で手術を行えるため補助金対象から除外している。また、保護猫にかかる医療費等についても、里親の協力を得て負担していただいているため補助金を使わずに済んでいる。ただし、領収書が出ないものや目に見えないもの、数字として出てこないものなどは依然として負担となっている。
消耗品費が増加した理由については、今年度は予想以上に子猫の保護数が多かったためである。これは瑞浪市に限らず全国的な傾向かもしれないが、子猫を保護すると猫砂やフードなどの消耗品が長期にわたり必要となるため、その割合が大きく増加した。そのため、令和8年度は消耗品費に比重を置いた予算配分としている。

●委員
地域にとって非常に大事な取り組みである。猫を保護して譲渡する活動は今後も続けられるのか。もらってくれる方が少なく猫ばかりが増えると、猫カフェ等にも限界があり、負担が増えていく懸念がある。長期にわたる継続は可能なのか。
〇ネコタス
今年度は子猫が多く、長期間預かっているケースもあるが、これまでの経験上、最終的にもらわれない子猫はいなかった。月2〜3回の譲渡会への参加、SNSや募集サイトでの発信を通じて譲渡につなげており、今後も子猫はほぼすべて譲渡につなげていきたいと考えている。

●委員
この取り組みはあとどれくらいの期間続ける必要があるのか。目標や達成に向けたビジョンがあればお聞かせいただきたい。
〇ネコタス
最終的な目標は、外で暮らす飼い主のいない猫がいなくなるまでの活動である。時期を何年と明言することは難しいが、これまでにTNRを行った地域では明らかに外猫が減り、増加の速度も止まっている。猫は境界線なく移動してくることもあるが、実施地域へのフォローアップを継続し、これ以上増えないように管理していくことで、全体として外猫は減っていくと考えている。
●委員
地域の理解を得て外猫がいなくなる地域をモデルとし、その地域をどこまで増やしたいというビジョンがあれば、さらに応援したい。

●委員
今後継続的に活動できる体制づくりについて説明していただきたい。
〇ネコタス
自走化に向けた体制として、現在は地域の方々に直接的な金銭支援をお願いすることはしていないが、地域での対話を通じて協力者が現れた場合には支援をお願いしていきたいと考えている。また、ロータリークラブ等の奉仕団体や企業への働きかけを通じて活動への理解を広げ、

寄付を募るアプローチも進めている。さらに、里親からの寄付なども活用し、活動自体を知ってもらうことで応援者を増やしていく方針である。

●委員

メンバーを増やすことも、PR 効果や寄付の集めやすさ、活動の幅を広げる上で重要なポイントであると考えているが、メンバー拡大についてはどのように考えているか。

〇ネコタス

令和 7 年度は 5 名でスタートし、現在の登録者としては 8 名体制である。現場に行く人、預かりをする人、搬送を手伝う人など、それぞれの生活に合わせて無理なく長く続けられるような役割分担とコミュニケーションをとっている。メンバーや協力者の募集については、定期的な SNS 発信に加え、協力店舗である猫カフェに張り紙を設置したことで実際に問い合わせや数名の参加につながっている。地道な声かけを行い、関心のある人がいればフットワーク軽くアプローチして仲間を増やしている。

●委員

そうした協力者の体制や実態をアピールに盛り込むことで、支援や寄付につながりやすくなるため、今後の PR ポイントとしてしっかり示すべきである。

●委員

組織は瑞浪市単独なのか。県単位の組織や支部との連携、また、ペーパー媒体など SNS 以外の広報手法の活用についてどう考えているか。

〇ネコタス

保護猫団体については、近隣の団体と良好な協力体制が整っており、お互いに必要な連携はしっかりと取れている。

＜市長コメント＞

8 名のスタッフや協力者を中心に、これほどの規模の活動を維持することは非常に大変であり、一人ひとりが大きな負担を背負いながら活動されていることに対して深く感謝したい。保護猫活動は今後ますます大切な取り組みであり、この問題の解決に向けては、今後も仲間や協力者を増やしながら継続していくことが不可欠である。本活動は本当に重要な取り組みであり、ぜひ頑張っていただきたい。

瑞浪暮らしの彩りマーケット実行委員会（以下「彩りマーケット」）

●委員

今回実施されるフリーマーケットの企画について、客層や年代などのターゲット設定はどのように考えているか。

〇彩りマーケット

客層については特に限定しておらず、幅広い年代の方に参加していただけることを期待している。フリーマーケットの出店者に関しては、小さなお子様がいる子育て世代が多く、子どもが使用しなくなった衣類などの出品が目立つという印象を持っている。

●委員

以前の「ホタル NIGHT」のイベントに伺った際、キッチンカーには非常に長い行列ができていた一方で、マルシェ側は時間帯の要因もあるかもしれないが閑散としていた。マーケットに出店している事業者の売上状況は実際どうなっているのか。

〇彩りマーケット

近年、マーケットにおけるクラフト作家の売上は減少傾向にある。アクセサリーやバッグなどの需要が相対的に落ち着いていることが影響しているため、私たちとしても PR を強化し、出店者の魅力をより効果的に伝えるよう努力を重ねている。しかし、それがクリエイター自身の新たな発想や、活動の向上心にどこまで結びついていくかという課題はある。そのため、毎回同じ出店者に固定するのではなく、新しい雰囲気を生み出すためにこちらで選考を行い、出店内容を確認しながらマーケットの雰囲気づくりと売上向上を図っている。ただ、現状として飲食部門の集客力や売上には及ばない部分がある。

●委員

予算関連の質問に繋がるが、会場演出のマッピング設備レンタルについて伺う。映像を投影する空間のイメージとして、大きなテントを張るなど、どの程度の規模感を想定してこの費用が発生しているのか。

〇彩りマーケット

マッピングは出店者のテントに向けて投影する。会場には 2.5 メートル四方から 3 メートル四方のテントが等間隔で並んでおり、そのテント群に対して会場の 4 方向の端から投影するイメージである。3 方向にするか 4 方向にするかは調整中であるが、最大で 8500 ルーメンのプロジェクター2 台と 7000 ルーメンのプロジェクター2 台を使用する予定である。8500 ルーメンのプロジェクターは非常に光度が高く、昼間の時間帯であっても比較的鮮明に視認できるほどの性能を持っている。高価な機材ではあるが、これにより非常に美しい投影効果が期待できる。非常に広大な芝生広場において、地面からテントの屋根に至るまで星空の映像が全方向から投影される形になるため、会場のどこを回っても星空の演出を体感できると考えている。また、出店者のテント間に適度な間隔を空け、その隙間から光が差し込むようなレイアウトにできるよう調整を進めている。

●委員

プレゼン資料に掲載されている AI 生成画像のイメージに引きずられてしまい、実際の規模感がやや掴みにくかった。実態に近い画像や図面があると、より分かりやすかったと感じる。

●委員

申請書の中で、高齢者から子どもまで世代を問わないマーケットを目指すという想いや、「暮らし整うマーケット」を通じて粗大ごみの減少などの社会課題解決に繋げたいという、非常に素晴らしい目標を掲げられている点に感銘を受けた。一方で、夜間の外出や、若年層が多く集まる場へ高齢者が足を運ぶことに対するハードルや、高齢層でも参加したくなるような工夫についてどのように考えているか。また、フリーマーケットを通じて「どのような形で社会貢献に繋がっているのか」というビジョンを来場者にどのように伝えていくのかも重要であると考えている。

〇彩りマーケット

1 点目の質問について、もともとは私自身がパンや菓子を製造し、各地のマルシェで 10 年間

ほど個人で販売事業を行っていた経緯がある。様々な地域に出店する中で、この瑞浪市のマーケットは特にご年配の方の来場者が多いという特徴がある。その理由として、親子 2 代・3 代の家族連れで、おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に乗り合わせて来場するという地域特有の文化や背景があると感じている。私たちから特別な働きかけをしているわけではないが、中日新聞などの新聞広告を通じて、ご年配の方から直接お電話をいただくことがある。また、会場となる公園の美化活動に携わっている地域の方からも「綺麗にしておいたよ」といった温かいお声がけをいただくなど、私たちの活動が地域に共有され、応援されていることを強く実感している。駅前で実施していた当初からこのような雰囲気が続いており、毎年楽しみに足を運んでくださる方や、毎回来場してくださる市長をはじめとする地域の方々の温かい支えがあってのことだと感じている。他地域のマルシェと比較しても高齢層の来場率が非常に高い。ただ、駅から市民公園までの距離があり交通の便に課題があるため、駐車場の確保が重要であると考えている。

2 点目の「整うマーケット」の取り組みに関して、過去には市による陶器リサイクルの譲渡会が PR を兼ねて出店され、回収した陶器の無料譲渡などに参加していただいた実績がある。こうしたイベントに足を運んでくださるお客様は、自身がリサイクルやリユースといった環境配慮型の活動に参画しているという意識を高めることができると考えている。瑞浪市においても、こうしたマーケットの場をさらに活用していただければ幸いである。

●委員

ここまで明確な目標を掲げて取り組まれているのであれば、これは単なるイベントにとどまらず、社会教育の場としても捉えることができると感じた。

●委員

いつも楽しく参加している。前回は雨天で参加できず大変残念であった。今回はプロジェクションマッピングもあり、今からワクワク感を味わえて非常に楽しみである。我が家も 3 世代で参加しており、今回も開催を心待ちにしている。

＜市長コメント＞

代表者をはじめ実行委員会の皆様には、日頃より瑞浪市に対しても多大なるご協力をいただき感謝申し上げる。特に、ミライ創ろまい課の高校生をはじめとする多様な若者たちを巻き込んだ活動や、明世地区まちづくり推進協議会とコラボレーションした「ホタル NIGHT」の企画など、多大なご尽力に改めてお礼申し上げる。

昨年の「ホタル NIGHT」に実際に足を運び大変驚いたが、夜間の時間帯であるにもかかわらず約 8,000 人規模の大勢の方が来場され、「明世ホタルの里“福”」の会場は大変な混雑となった。そのような状況下であっても、まちづくりの役員の皆様が適切に誘導を行ってくださり、事故なく安全に運営できたことは、お互いの相乗効果が十分に発揮された結果であると感じている。今後も自らの事業の枠にとどまらず、これまで同様に地域を巻き込み、地域住民が主体的に参加できるイベントとしてさらに発展させていただければありがたい。また、プロジェクションマッピングについては、資料のイメージとは実際の規模感に多少の違いはあるとのことだが、非常に期待をしている。どうか当日は好天に恵まれることを願っている。

駐車場の件について、市民公園の周辺には多くのスポーツ施設が集積しているため、スポーツの大会やイベントが重なる日は駐車場が満車となり確保が非常に難しくなる。一方で、そうしたイベントがない日であれば、体育館の周辺に大きな駐車場が存在する。そのため、事前に

体育館側へ確認を取り、土日を中心に開催されるスポーツイベントのスケジュールを把握した上で、開催日を調整していただければ、体育館側の駐車場を有効に活用できるのではないか。市としても協力は惜しまないが、新たに駐車場を新設することは困難であるため、現在ある既存の駐車場をいかに調整し、活用していくかが重要であると考えている。今年度の取り組みも大いに期待している。

【５．全体講評】
≪審査委員、市長、事務局による意見交換≫
＜ネコタスについて＞
・釜戸町では中学校横の池に猫のねぐらがあり、糞害をはじめ多くの問題が生じている。住民にこれが「害」であると認識されることが重要である。自治会等での助成のハードルはあるが、住民に活動を知ってもらう広報活動などは実施できるのではないか。
→「広報みずなみ」での特集など、過去に行ったような情報発信の応援は可能である。しかし、継続的な補助金の支給となると、限られた予算のなかでは難しい面がある。限られたメンバーでの活動には限界があり、活動を続けるほど対応すべき猫が増えていくという課題もある。

・県に申請すると、施術代として1匹あたりいくらかの金銭が支給される仕組みなのだろうか。
→現金が支給されるわけではなく、県が無料で不妊去勢手術を実施してくれるという事業である。そのため直接お金が入ってくるわけではなく、猫を連れていけば無料で手術を受けられるという県の支援措置であり、補助金（現金給付）とは異なる。

＜釜戸について＞
・釜戸町では店舗の減少が課題であるが、今回の事業は生活支援というより「観光振興・にぎわいづくり」として提案した方が理解を得やすかったのではないか。東屋の隣には綺麗なトイレがあり、ドライバーの休憩スポットとして環境が良い。

・手段と目的が混同している点が課題である。最終目的は生活環境の向上だが、観光振興という手段と並列になっているため理解しづらい。まずは観光で人を呼び込み、結果として地域が活性化するという順序の整理が必要である。

・東屋内での日用品や野菜の販売はスペース的に難しいため、外にテントを張るや軽トラ市のような形、あるいは週１回の移動スーパーなどが現実的である。

・近隣には「きなぁた瑞浪」などの特産品売り場もあり、車社会や家族の送迎を考慮すればそちらの利用も可能である。役割分担を整理したほうがよい。

・「竜吟峡（ドラゴン21）」などの観光資源は大きな魅力である。単に五平餅を売るだけでなく、散策や岩登りなどの自然観光と組み合わせ、全体の流れの中で楽しんでもらうスタイルを作るべきである。

・夏場の五平餅の需要はあるか。
→バーベキューなどで食べる食文化として定着しており、季節を問わずイベント等での需要は

ある。

・東屋での販売について、予約制のみにするとそれ以外の人が買えず、多くの来訪客を逃すことになりもったいない。人員や仕入れ数の課題はあるが、試行錯誤しながら通りすがりの客も購入できるようにすれば、売り上げの向上につながるのではないか。
→土日祝日は通常の営業時間内で一般販売を行い、その上で予約販売については応相談で受け付ける。

【６．事務連絡】
≪事務局より説明≫

【７．閉会】
≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以　　上